

文化遺産防災ネットワーク推進会議の災害時における活動ガイドライン 策定状況

「文化遺産防災ネットワーク推進会議の災害時における活動ガイドライン」は、2020年2月4日の第11回文化遺産防災ネットワーク推進会議において承認され、運用されることになった。以下にその策定作業の経過を記す。

2017年度文化遺産防災ネットワーク有識者会議において、文化遺産防災ネットワーク推進会議が具体的な連携のもとに活動を行うにあたってのガイドラインが必要ではないか、との意見を頂戴した。これを承け、国立文化財機構は2018年度文化財防災ネットワーク推進事業に新たな作業項目を設け、準備に取り掛かった。

「文化遺産防災ネットワーク推進会議の災害時における活動ガイドライン(案)」は2018年5月23日の第8回文化遺産防災ネットワーク推進会議で草案(策定要項案)が配布され、同年6月13日の同年度第2回文化財防災ネットワーク推進本部会議に報告された。

以後、策定作業はワーキンググループ会議によって行われることになった。ワーキンググループ会議は5名の方々に委員を委嘱し、2018年6月27日を第1回として、2年間にわたり合計10回の作業会議を開催した。また、国立文化財機構から推進室長以下4名が加わった。

第4回WG(2018年10月22日)の後、11月15日の第9回推進会議、12月14日の同年度第3回推進本部会議に諮られ、骨子の基本的な部分について承認を得た。

第10回推進会議(2019年5月29日)に「活動ガイドライン(案)」として提出し、各参画団体からの意見を求めた。これをもとに第10回WG(7月29日)において同年秋の成文化に向けての作業を行った。

2019年12月に次年度予算案が閣議決定され、推進事業が国立文化財機構の運営費交付金によって実施されることになったのを承け、WGはメール連絡による作業を行い、「活動ガイドライン」の最終案を作成した。これについて2020年1月24日に開催した2019年度第6回推進本部において国立文化財機構としての承認を得た後、2月4日の第11回推進会議に提出し、参画団体による全会一致の承認を得た。

ワーキンググループ会議

- 第1回WG(2018年6月27日／京都国立博物館)
- 第2回WG(7月10日／東京国立博物館)
- 第3回WG(10月2日／京都国立博物館)
- 第4回WG(10月22日／京都国立博物館)
- 第5回WG(2019年1月29日／京都国立博物館)
- 第6回WG(3月1日／京都国立博物館)
- 第7回WG(4月15日／京都国立博物館)
- 第8回WG(5月20日／京都国立博物館)
- 第9回WG(2019年6月24日／東京国立博物館)
- 第10回WG(2019年7月29日／京都国立博物館)

ワーキンググループ会議 メンバー

- 佐久間大輔(大阪市立自然史博物館、学芸課長代理) 副座長
- 佐藤大介(東北大学災害科学国際研究所、准教授)
- 田中善明(三重県立美術館、学芸普及課長)
- 浜田拓志(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター、客員研究員) 座長
- 日高真吾(国立民族学博物館、教授)

(国立文化財機構)

- 朝賀 浩(京都国立博物館、学芸部長)
- 岡田 健(国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進室、室長)
- 小泉恵英(九州国立博物館、学芸部長)
- 高妻洋成(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター、センター長)